

橋梁の保全事業強化

ASPで適切修繕を支援

梁の保全事業に対応することにした。

既に06年11月には鋼橋分野で唯一、解析ソフトウェアを使ったコンサルディングができる耐震解析研究所と技術協力を締結。独自の耐震補強工法である「NEE」桁衝突工法」も開発し、実績を挙げてきた。橋桁の遊間部に間詰材を充てんして地震慣性力を低減する工法で、既に約40件の設計実績があるという。

ネットを通じて道路施設管理を支援するソフトをレンタルするサービスで、自治体は橋梁の最適な長寿命化修繕計画を策定できる。こうした技術を背景に、破断が見えられた木曾川大橋の破損調査にも協力している。名古屋大の山田健太郎大学院教授とともに委員会に参画し、検討資料の作成などを担当している。

大日本コンサルタント（船木健治社長）は、耐震補強や維持管理、修繕・補修を含めた「橋梁の保全事業」を強化する。道路橋のアセットマネジメントなどの経験をもとに、07年2月からは自治体の橋梁保全事業を支援するASP（アプリケーション・サービス・プロジェクト）事業を展開しており、適切な時期に適切な補強を行う修繕計画の策定を後押しする。また、国土交通省が実施する国道23号木曾川大橋（三重県）の破損調査にも協力しており、高い技術力をベースに既存スト

ックを長く大事に保全する事業に貢献していく。同社は、道路・橋梁事業を得意とし、同部門の受注は07年6月期で約81億円と全体の78%を占めた。ただ、近年、橋梁に關しては金額ベースで4割が既設に関する仕事となり、新設から保全へと

事業の比重が移りつつある。国交省も3カ年プログラムを策定するなどして道路橋の耐震補強に力を入れており、今後、大規模で構造が複雑な橋梁の補修事業も予想される。小規模であってもエリアや路線全体での補修も想定され、積極的に橋

併せて07年2月からは自治体の橋梁保全事業を支援するASP「道の知恵袋」を開始。インター